

— 第71号 —

〒214-8565  
川崎市多摩区西生田1-1-1  
日本女子大学教育学科の会  
電話 044 (952) 6870 (代)  
FAX 044 (952) 6889  
ホームページ  
http://jwu-gakuen.net/  
メールアドレス  
info@jwu-gakuen.net

第27回 **日女祭**

10月21日(土) 22日(日)  
午前10時～午後5時

\*入場は両日共に午後3時30分まで

### ホームカミングデイ・講演会のお知らせ

会長 吉崎 静夫

毎年、日女祭にあわせてホームカミングデイを開催し、講演会を行っています。今年は一九八九年四月から二〇一三年三月までNHK教育テレビ(Eテレ)の幼児向けの工作番組に出演した久保田雅人氏にご講演をいただくことになりました。

久保田氏は、番組終了後も多くの幼稚園・保育園を訪れ工作教室や講演活動を全国各地でされています。学生時代は、高等学校の歴史教師を目指していた久保田氏が、なぜ子ども番組の世界に関わるようになったのか。番組作りの工夫や苦労話から「仕事」に向かう姿勢まで、様々な角度からお話いただきます。

また、本講演会では、久保田氏と共に工作を楽しみます。幼児造形に長年携わってきた久保田氏が、子どもたちのかかわりの中で何を大切に、どのようなメッセージを紡ぎだしてきたのかを共に体感しましょう。皆さま、どうぞ奮って参加ください。

日 時 平成二十九年十月二十二日(日)  
午前十時二十分～午前十一時三十分

場 所 九十年館A棟第一会議室  
(西生田キャンパス)

テ ー マ ドキドキ〜つくってまなぼ! —久保田雅人氏に聞く造形教育—

講 演 者 久保田雅人氏

司 会 齋藤慶子・渡邊巧(教育学科)

申し込み 準備の都合上、なるべく同封の葉書で十月十三日(金)までにお申し込みください。(申し込みなしでの当日参加も歓迎します。)

提言

### 日本語と外国語の学び

教育学科特任教授 宮井 和恵

大手会社の社長になった友人がいる。彼は社長に就任した頃、英語の勉強に精力的に取り組んでいた。近年は、中国語である。人を育て、組織力を高めてきた歴史のある日本の企業は、今、海外事業業績を高めようと、社員の外国語力向上に力を入れている。教育界においても、次期学習指導要領の下で始まる5、6年生の教科「外国語」と国語教育の連携に関心が高まっている。そもそも、外国語を学ぶことは人間形成にどのように資するのであろうか。

今年の2月に、シドニー日本人学校を視察した。そこには、日本人学級(日本の義務教育+ネイティブによる英語授業)と国際学級(オーストラリアの義務教育+ネイティブによる日本語授業)があり、両学級(同年児童)の合同ミックスレッスンもあった。これは「シドニーバイカル」教育の根幹を成す柱でもあり、世界でも珍しいユニークな教育システムである。日本語と英語の連携が学校生活の中で自然に行われ、それぞれの文化的なアプローチも大切にしながら、言葉への関心を高めていた。印象に残っている学校紹介文がある。『英語環境で生まれ育つ子ども達にとっては、日本語は全く未知の考え方と言えます。例えばひらがなと漢字、カタカナによつて同じ単語を表現することができるなどの日本語構造は、アルファベットのみの英語に比較すると、より深い理解と複層的な思考をつながずと考えられています。国際学級では、こうした子ども達に日本語を教えることで、複雑な構文にも対応できるように思考を身につけさせています。』この文面から感じるのは、言語の学びが思考力育成に繋がると価値つけている教育の奥深さである。言語とは何かを改めて考えさせられたのであった。

認知から思考へ、思考から表現へと言語能力が働くプロセスを充実させるために、伝達手段としての言語スキルを高める教育は欠かせない。しかしそれ以前に、物事を考えたり感じたりするときに自分の中で発している言葉があることに意識を向ける必要がある。それは内言語とも呼ばれ、多くの日本人の場合、内言語は日本語である。それゆえ日本語の語彙力が増せば、思考が豊かになるといわれている。日本語や外国語の特徴に興味をもち、意欲的に学ぶようになれば、おのずと両者の語彙力も高まり、より幅広い思考や表現へと繋がるだろう。さらに、外国語で積極的に「コミュニケーションをとろうとする時、内言語で考える力も高まるはずである。このような言語と思考の関係も「連携」で、大切にしたい視点である。

企業が育成する人材は、内言語で思考を深めながら巧みな外国語で人の心をつかみ、グローバルに事業を展開していくのであろう。

# 平成二十九年 教育学科の会 大会報告

第五十六回 教育学科の会大会が、五月二十七日(土) 西生田キャンパスにおいて行われました。

## 〈第一部・総会〉

総会は、会長挨拶から始められ、議長の選出、平成二十八年度事業報告、決算報告が行われました。平成二十八年度の主な事業報告として、第五十五回大会が行われ、総会の後三名の講師による「学縁の集い」が開催され、卒業生を囲み学生の熱心な質疑が行われたこと、十月十五日(土)にホームカミングデイが開催され、唐澤るり子先生による「唐澤富太郎と博物館」の講演がありました。十一月五日(土)に懇話会が百年館において開催され、本井康博先生により『私学教育のバイオニア「朝が来た」&「八重の桜の世界」』の講演があり、山本寛馬、土倉庄三郎、新島襄、新島八重、広岡浅子、成瀬仁蔵らの活動を時代の流れと共に説明して頂き、私学がどのようにならなければならないのかを講演して頂きました。三月には紀要「人間研究」第五十三号が発行され、会報「葦」第六十九号が九月に、第七十号が三月に発行されたことが報告されました。

その後、役員を選出、平成二十九年度事業計画、それに伴う予算案と「人間研究の執筆要項改訂について」が可決されました。教育学科の会奨励賞は、田尻信壹氏、野中美津枝氏、福田直氏に決まりました。〔報告 副会長 浦野敬子(25回生)〕

## 〈第二部・第二十一回 学縁の集い〉

今回の学縁の集いは卒業生の方二名が講演してくださいました。小学校、企業とそれぞれの職場で活躍されている先輩方から就職に向けてのお話や学生時代の過ごし方、学生へのアドバイスなどのお話を伺いました。全体での講演後、講演者の方を中心にグループトークを行い、さらに詳しくお話を伺ったり、質問をすることができ貴重な経験ができました。

### ★井村絵里子さん

井村さんは現在教員三年目で東京都の公立小学校に勤めていらっしゃいます。授業では子どもたちが興味を持てるように自分の足で現場に行き授業を作っているそうです。学生時代にはボランティア活動に力を入れていて、そこで子どもを引き付ける力やコミュニケーション能力を身につけた事が現在に活かされているとおっしゃっていました。今

回実際にレクリエーションを行ってくださり参加した方々のことを楽しませてくれました。また、得意だけでなく苦手なことにも逃げずに学生時代から挑戦しておくことの



左 岡村さん 右 井村さん

大切さも教えていただきました。

井村さんは子どもたちと過ごす時間は宝物であるとおっしゃっていて、休み時間は丸付けや仕事はおいておき、女の子とも男の子とも自分から声をかけ全力で遊んでいるそうです。時には上手くいかず失敗することもあるけれど、本当に子どもを思っているからこそ本気で怒り本気で感動し本気で笑うことができるからおっしゃっていたのが印象的でした。

### ★岡村鈴奈さん

岡村さんは食品関係の会社に勤めていらっしゃいます。会社では自家製商品を販売していただくための商品のプレゼンテーションなどを行っているそうです。学生時代に教育学科で教員になるための勉強や模擬授業を行っていたことが今のプレゼンテーションの力に活かされていて、また

教育実習を通して、伝えるのではなく伝えるように相手を知り相手が求めていることを伝えることの大切さも学ぶことができた

おっしゃっていました。お客様にただ買ってもらうのではなく、欲しくなるような情報や求めているものを提供するようになったそうです。企業の道を歩んだけれど今まで学んだことは一つも無駄ではなく、職は違っても大事なことはいつも同じであるとおっしゃっていました。

そして、小さいことでも大きいことでも得意なことを伸ばし自分のできることを増やすことや、緊張すること不安なこと楽しいことなど心がドキドキすることをたくさんやってみようなどのアドバイスをいただきました。

### ★感想

教員の方と企業に進まれた方と異なる職業のお話を聞くことができ、非常に勉強になりました。今回講演してくださいました方は、職業は違っていますが、子どもたちやお客様に笑顔や幸せを届けたいという同じ気持ちを持ち、自身の夢を追いかけている姿がとてもかっこよく、私たち学生も今後の目標を決めるなど意識が高まる会となりました。また、教員を目指すにせよ企業を目指すにせよ今学んでいることは社会で活かすことができると思いき、何事にも一生懸命に頑張っていこうと思いました。今回は素晴らしいお話をありがとうございました。

【学生委員3年 黒川麻美】

### ★参加者の声

・実際に働いている方々のお話を直接聞ける機会はとても貴重なのでいい経験にな



グループトークの様子

りました。  
 ・教職だけでなく企業でも教育学科で学んだことが役に立つと聞きさらに勉強を頑張ろうと思いました。  
 ・挑戦することの大切さを聞き今から色々経験してみようとする気ができました。

**☆学生委員の声**  
 自分たちで講演してくださる方に声をかけ来ていただくことは初めてのことで緊張しましたが、参加してくださった方も貴重な経験ができよかったですと言ってくださり、私たちがとても有意義な時間となりました。



**教育学科「新入生歓迎会」**  
 教育学科の会では今年度も新入生をお迎えしました。教育学科の会は卒業生・教員・学生で成り立っている会です。これからも学生にも卒業生にも会の活動に積極的に参加していただき、より良い会にしていきたいと思えます。今回は4月13日に行われた、教育学科の新入生歓迎会の様子をお伝えします。

☆「新入生歓迎会」では、学科長の田中先生のご挨拶に始まり、各先生方が新入生へのメッセージと専門分野・担当授業のお話をしました。その後、新入生から先生方への質問タイムがもたれ、「お勧めの授業」や教職に関する質問、スウェーデンやベトナムの海外研修に関する質問等があり、大変盛り上がりしました。最後に、大学院専攻主任の井上先生から終わりのご挨拶があ

**懇話会のお知らせ**  
 私の歩いて来た道  
 ～八十五年の人生～

政治、環境問題や、女性の社会的地位の向上に造詣が深く、各地の講演会などで活躍中の、元千葉県知事の堂本暁子氏をお迎えします。

講師 堂本暁子氏  
 日時 二〇一七年十二月二日(土)  
 午後一時三〇分～三時三〇分  
 会場 日本女子大学目白キャンパス 香雪館 205教室

※例年の会場と違いますので、当日案内板を目印においでください。

会費 無料  
 申し込み 同封のハガキまたは直接会場へ  
 問合せ先 赤塚 国子(文化部24回生)  
 ☎0466・34・9177

り、盛会の内に終了しました。  
 新入生歓迎会で配られるお茶やお菓子は、教育学科の会の「研究室委員会費」から拠出されております。お菓子は、日本女子大学人間社会学部の学生が地域と連携しながら開発した「米彦(マイ・プリンス)」です。また、学科パンフレットの作成にあたっては、昨年度、教育学科の会に大変お世話になりました。【齋藤慶子(教育学科)】

**堂本暁子氏プロフィール**

政治家、ジャーナリスト。千葉県知事、参議院議員、新党さきがけ議員団座長を歴任。一九三二年、アメリカ合衆国カリフォルニア州生まれ。東京女子大学文学部卒業後TBSに入社し、記者、ディレクターとして活躍する。一九八九年から二〇〇一年にかけて参議院議員として、環境基本法、男女共同参画社会基本法などの立法、審議に深くかかわる。IUCN(世界自然保護連合)理事や副会長を務め、一九九七年にはUNEP(国連環境計画)の「環境に貢献した二十五人の女性リーダー」に選ばれる。二〇〇一年までGLOBE(地球環境国際議員連盟)第5代世界総裁。二〇〇一年から、二〇〇八年まで千葉県知事を務め、みんなで作る新しい地域社会を目指して、不法投棄産業廃棄物量の激減や、NPOの増加などさまざまな改革を打ち出した。

著書は、『南極にいどむーアムンゼンとスコットの物語』(教育社一九八八)、『立ち上がる地球市民ーNGOと政治をつなぐ』(河出書房新社、一九九五)、『生物多様性』(岩波書店、一九九五)、『堂本暁子のDV施策最前線』(新水社、二〇〇五)、『堂本暁子と考える医療革命ー性差医療が日本を変える』(中央法規出版、二〇〇九)『生物多様性ーリリオからなごや』(COP10)、『そして・』(ゆいばおと、二〇一〇)など。

## 奨励賞を受賞して

### 奨励賞を励みに研究を深めます

目白大学人間学部 教授 田尻信壹

この度は、教育学科の会より奨励賞を賜り、心より感謝申し上げます。本賞を頂いたことを励みにして、研究を深めていきたいと思えます。

私は、これまで高校(埼玉県の公立高校、筑波大学附属高校)で二十七年間、大学(富山大学、共立女子大学、目白大学)で十一年間、教鞭を執って参りました。この間、一貫して、世界史教育に携わって来ました。学位論文の題目は、「探究的世界史学習論の研究 史資料を活用した歴史的思考力育成型授業の構築」です。本研究は、私の三十八年間の世界史教育の歩みを振り返り、総括したものです。

審査では、主査を田部俊充先生に、副査を今井康雄先生、齋藤慶子先生に、また、外部審査委員(副査)を福井憲彦先生(審査時は学習院大学教授、現・日仏会館理事長)、森茂岳雄先生(中央大学教授)にお願ひし、ご指導頂きました。とくに田部先生には、研究の構想段階から親身なご助言を頂きましたことが、学位論文の完成に繋がりました。田部先生を始め、諸先生方には、深謝申し上げます。



左 福田氏 右 田尻氏

本研究では、歴史意識と歴史的思考力を鍵概念として、史資料を活用した世界史学習を通して、探究的学習に基づく授業構成モデルを開発して、提案致しました。この度、勤務大学(目白大学)から出版助成を得られましたので、本研究を今年十二月に風間書房より刊行する予定です。私自身、これを研究の終着点と考えるのではなく、通過点と位置付け、なお一層の精進をしていきたい所存です。

### 「土の惑星」地球の存続に向けて

武蔵野学院大学 教授 福田 直

この度は、教育学科の会より奨励賞をいただき、心より感謝申し上げます。

私は、高等学校を経て、現在大学に奉職しております。私は長く実践研究してきました土壌教育についてまとめたかと考えておりました。しかし、土壌教育は歴史が浅く、論文指導を受け入れていただけの教授、大学などは見つかりませんでした。その後、田部俊充先生のご指導を賜れます幸運に恵まれ、論文「土壌リテラシーの育成に向けた学校教育における土壌教育の在り方に関する研究」をまとめることができました。この間田部先生のご指導のもと、田中雅文先生、吉崎静夫先生をはじめ、多くの先生方より懇切丁寧できめ細かいご示唆を賜りました。

近年、世界の土壌は疲弊しており、危機的状況にあります。FAOは、「世界の土壌の四分の一が著しく劣化している」(二〇一一年)ことを発表し、食糧危機などの懸念を警告しました。このような中、我が国は食料の六割、木材の七割を海外に依存しています。ともに土壌を生産基盤としています。その後、国連は二〇一五年を「国際土壌年」と決議し、全世界の政府及び関係機関の土壌管理・保全や土壌教育の推進などを強く要望しました。地球財産である土壌につい

て、次世代を担う子ども達・若者をはじめ、多くの人々に関心を持つていただき、土壌を積極的に保全する考えや態度、行動を育むことは重要と考え、幼稚園から大学、さらに成人に至る土壌教育の構築を研究しました。これを機に、今後土壌リテラシーを育成する土壌教育を国内外に発信していく所存です。

最後に、ご指導賜りました諸先生、教育学科の先生方、会の皆様にご心より敬意を表するとともに御礼申し上げます。ありがとうございました。

### これまでの研究成果が結実

茨城大学教育学部教授 野中美津枝

この度は、教育学科の会より「奨励賞」を頂き、心より感謝申し上げます。

私は、高校家庭科教員として長年授業研究をした後、大学へ移りました。大学では教員養成に尽力しつつ、研究では、これまでのいつも目の前にフィールドがあり、自分で思うように授業研究ができた高校現場と異なり、研究をどう進めるのか悩んだ時期もありました。それでも、私にはこれまでの経験を生かした授業研究しかないかと、少しずつ現場の先生方と共同研究を進めることができるようになりました。

そして、博士課程を目指したいと決心し、家政系ではなく、教育学で行きたいといういろいろ探しておりました。そん



(5)

な時、吉崎静夫先生のご著書を拝読し、これまでの授業研究での思いがすつきり理論に落ちていて、絶対に指導を賜りたいと思いました。それから、突然ご連絡したにもかかわらず、吉崎先生は快くお会いして下さい、ご指導をお引き受け下さいました。本当に有り難く、当日は嬉しくて小躍りして帰りました。

博士論文は、「生活課題解決能力を育成する授業デザインと授業評価・改善に関する研究」のテーマで、長年にわたる授業研究をまとめました。これまでばらばらだった論文が、吉崎先生から教育学における授業研究や論文構成についてご指導頂き、また、副査をお引き受け頂いた田部俊充先生、齋藤慶子先生からもご丁寧な指導を賜り、一本の博士論文にまとめることができました。心よりお礼を申し上げます。



【平成29年度 教育学科の会】 理事

(数字)は回生

- |           |  |                   |            |            |  |
|-----------|--|-------------------|------------|------------|--|
| 【会 長】     | 吉崎 静夫  |                   |            |            |  |
| 【副 会 長】   | 浦野 敬子 (25)   | 大森 桃子 (26)        |            |            |  |
| 【研究室委員会】  | 齋藤 慶子  | 渡邊 巧              |            |            |  |
| 【回生委員会】   | 委員長 萩野 厚美 (25)   | 副委員長 藤田 良子 (25)   | 近藤 尚子 (34) | 宇野 儀子 (25) |  |
| 【総 務 部】   | 部 長 増山 在子 (27)   |                   |            |            |  |
| 【会 計 部】   | 部 長 菊地 康子 (26)   | 副部長 森岡 美千子 (26)   |            |            |  |
| 【会 員 部】   | 部 長 松尾 里羽子 (31)  | 副部長 青木 紀子 (31)    |            |            |  |
| 【庶 務 部】   | 部 長 杉山 京子 (27)   | 副部長 島 容子 (35)     |            |            |  |
| 【会報編集部】   | 部 長 石井 美奈子 (38)  | 副部長 妙園 蘭 やよい (34) |            |            |  |
| 【文 化 部】   | 部 長 赤塚 国子 (24)   | 副部長 渡部 泉 (24)     |            |            |  |
| 【学 生 委 員】 | 1 学年 猪瀬 瑛美 加藤 あおい 櫻井 悠夏 下田 朱莉 高尾 晴菜<br>竹崎 真央 古家 幸乃 松田 純奈                                   |                   |            |            |  |
|           | 2 学年 五百蔵 彩可 芽 智陽 田村 麗 野村 千裕 堀水 真世<br>横山 瑞希 白倉 実奈 善養寺 李奈                                    |                   |            |            |  |
|           | 3 学年 東春 花 上村 綾乃 黒川 麻美 榊 祐奈 鈴木 美奈<br>馬場 真歩 林辺 くるみ 平野 瞳 山口 紘佳 徳永 綾乃<br>片桐 芽吹                 |                   |            |            |  |
|           | 4 学年 根岸 知世 川村 小柚季 森谷 真由子 五野上 葵 西元 希<br>丸山 侑織 小林 舞咲 戸澤 真澄 伊藤 あゆ 安田 汐里<br>若泉 潮音 古澤 実咲子 藤島 美羽 |                   |            |            |  |
|           | 大学院 堆 珠美 伴野 美緒   |                   |            |            |  |
| 【監 事】     | 古戸 のぶ子 (27)  |                   |            |            |  |



日本女子大学教育学科の会  
平成28年度決算書(平成28年5月1日～平成29年4月30日)  
及び平成29年度予算書

## 収入の部

項目	平成28年度			平成29年度
	予算	決算	差額	予算(案)
入会金	100,000	102,000	-2,000	100,000
会費	2,300,000	2,341,000	-41,000	2,500,000
人間研究 助成金(*1)	200,000	261,360	-61,360	200,000
受取利息	300	12	288	100
その他(繰越金)	0	0	0	303,400
収入の部合計	2,600,300	2,704,372	-104,072	3,103,500

(\*1) 学科刊行物印刷費など

## 支出の部

項目	平成28年度			平成29年度
	予算	決算	差額	予算(案)
奨励金	30,000	90,000	-60,000	60,000
印刷費				
人間研究(550部)	600,000	522,720	77,280	300,000
会報(消費税含む)	430,000	499,644	-69,644	400,000
名簿	10,000	0	10,000	10,000
名簿データ管理料	130,000	130,588	-588	130,000
行事運営費				
大会	140,000	140,000	0	140,000
懇話会	140,000	122,933	17,067	140,000
ホームカミングデー	40,000	48,989	-8,989	60,000
理事会等運営費(会議費)	100,000	112,933	-12,933	80,000
活動費				
研究室委員会	220,000	173,747	46,253	220,000
学生委員会	50,000	46,012	3,988	50,000
回生委員会	155,000	123,817	31,183	150,000
総務部	53,000	43,306	9,694	54,000
会計部	30,000	33,262	-3,262	30,000
会員部	14,500	11,974	2,526	14,500
庶務部	55,000	40,314	14,686	40,000
文化部	20,000	17,260	2,740	20,000
会報編集部	100,000	80,910	19,090	100,000
研究誌編集部	40,000	0	40,000	40,000
研究室経費	40,000	14,444	25,556	40,000
送料・通信費	860,000	803,763	56,237	800,000
事務・消耗品費	38,000	27,442	10,558	30,000
慶弔費	10,000	0	10,000	10,000
雑費(パンフレット代含む)	20,000	106,900	-86,900	20,000
ホームページ	65,000	63,402	1,598	65,000
桃柿育英会(震災義援金)	20,000	20,000	0	20,000
会費促進費(ファイル代)	0	0	0	100,000
支出の部合計	3,410,500	3,274,360	136,140	3,103,500

平成28年度収支差額	-569,988
前年度からの繰越金	6,793,753
次年度への繰越金	6,223,765

上記のとおり報告いたします。

平成29年5月27日

教育学科の会 会長 吉崎静夫

会計 菊地康子

上記について慎重に監査した結果いずれも適正かつ妥当なものと認めます。

監事 古戸のぶ子

## 会員の広場

ハガキ  
コーナー

◆ 介護生活もそろそろ17年。こちらが介護を受ける年齢になり、まだまだと思いい日々生活しています。教育学科がまた目白に移転するかと思うと感慨深いものがあります。引越越しのお手伝いが昨日のことのようです。 21回生 高橋 園子

◆ 第二子の育休を終え、4月より復職します。小学校の現場で新卒以来ずっと担任をもってきたのですが、今回初めて理科専科になります。上の子の小学校入学、下の子の保育園と重なり、不安でいっぱいです……。 53回生 東出 春菜

◆ 年なりに健康に恵まれ、毎週ボランティアに参加し、専門外の分野への講座参加や趣味に生き、毎日をできるだけ納得できる生活をと心がけております。(来年は米寿を迎えます。) 4回生 東京都

◆ 昨年から回生委員のお役に就いて、懐かしい目白キャンパス、今回の「大会」では西生田まで足を運ぶ機会に恵まれ、嬉しく思います。 22回生 千葉県

◆ 日本女子大学からの封筒が届くと、気持ちがあつとします。4月から5年目の教師として初任校の最後の年としての1年が始まります。毎日いろいろなことが起こりますが、結婚式などで大学の友人と会う度「またがんばろう」と思えます。今年度もまた頑張ります。 63回生 衛藤 美幸

◆ 今回の「葦」は読みごたえのあるものでした。唐澤富太郎先生には50年前出版社勤務時代に先生の本ご出版で大変お世話になりました。なつかしく思い出しました。また現在、地域で外国人に日本語教育のボランティアをやっているのので「学ぼうシリーズ」もとても感心をもって拝読しました。 15回生 埼玉県

◆ 先日新聞に男性の体で生まれたが女性として生きるトランスジェンダーの学生を受け入れるかどうかの検討を日本女子大が新年度から始めるという記事がありました。「あさがきた」に続き、母校のニュースはうれしいものです。40人に1人くらいいるといわれるLGBT、検討の時期なのですね。 26回生 早稲 智美

◆ 講演会、懇話会のご報告は会に伺えなかったもので、貴重でした。学ぼうシリーズ「外国人児童生徒等教育の現状と課題」は公立の小・中で現実の大きな課題となっていることで、大切な資料です。会員の広場「婦人国際平和自由連盟国際会長の秋林こずえさん」もうれしい話題でした。 院8回生 東京都

◆ 本井先生の講演内容がよかったです。「あさがきた」で成瀬先生が登場したのはびっくりでした。また山本八重たちとの関わりもおもしろいですね。学科のたよりはうれしいです。

◆ 4月で還暦を迎えます。卒業後、小学校の教員としてがんばってきました。三人の子育てと仕事の両立もまだまだ課題だらけです。でも家族の協力があったからこそ、今まで仕事を続けてこられたと思っています。さあ、あと一年、がんばります！ 30回生 竹市 基美与

20回生 嶋田 富美代



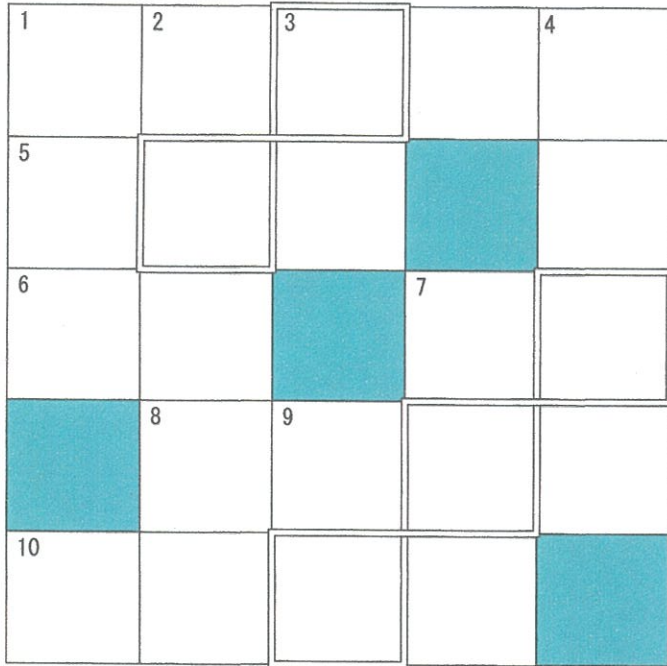
## お知らせ

前号でお知らせしました通り、教育学科の会の会費を納入して下さった方には今回特製ファイルを同封しております。事務手続きの関係で今回同封されていない方には次号と併せてお送りしますのでご了承ください。



# クロスワードパズル

二重線枠の文字を組み合わせてできるひらがな5文字の言葉は？



答え

--	--	--	--	--

- ◆ 解答を同封のハガキに書いて送ってください  
正解者 10 名に図書カードを贈呈します。  
(正解者多数の場合は抽選)
- ◆ 前回の正解は<シクラメン>でした。  
たくさんのご応募ありがとうございました。

**締め切り**  
**10月13日(金)**  
**必着**



### <ヨコのカギ>

1. 情報のネットワークにいつでもどこでもアクセス可能な環境
5. 青森や仏・ノルマンディーが名産地。甘酸っぱいフルーツ
6. 「東風」のこと。または、白身の高級魚
7. ○猫、○豆、○酢
8. 「○○○○哀愁。○○○○お願いします」
10. 素人が「とうしろ」ならば女人は？

### <タテのカギ>

1. 小池、石田、二葉
2. 紀州、土佐、日向。焼き鳥や蒲焼きの美味しさの要
3. 鈴虫、猪、芋、桔梗、運動会・秋の○○
4. サイコロを振って駒を進める日本古来のボードゲーム
7. 日本最大の湿原と阿寒湖を有する北海道の市
9. ○本木、○甲山、第○感

### <ヒント>

オリンピックで注目される○○○○○。幾つ出るか！

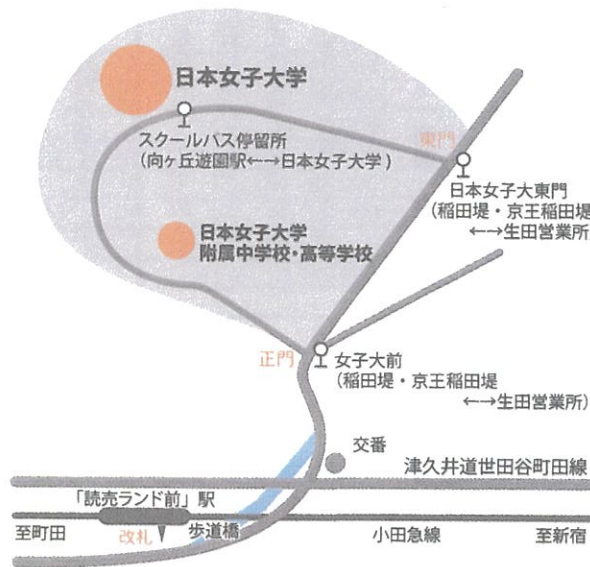
### 【当選者】(敬称略・数字は回生)

秋山 房子 (13) 植木 和美 (18) 久保 紫の (21) 水上 和子 (24) 後藤 佳子 (37) 東出 春菜 (53)  
 山崎 祥子 (57) 小林 涼 (61) 田中 美沙 (62) 齋藤 真由美 (院 22)

年号表記につきましては、原稿により、和暦と西暦があり、併用しています。

**編集委員**  
 高橋 藤枝 (23回生)  
 内山 睦美 (34回生)  
 斉藤 素子 (34回生)

佐藤 恭子 (34回生)  
 妙園 やよい (34回生)  
 星野 ひろみ (37回生)  
 石井 美奈子 (38回生・会報編集部長)



### 交通のご案内

- ◆ 小田急線 読売ランド前駅下車  
徒歩 15 分  
・新宿から急行 25 分 (向ヶ丘遊園乗り換え)  
・新宿から準急 30 分
- ◆ 小田急線 向ヶ丘遊園駅下車  
北口 3 番停留所よりスクールバス (所要時間約 15 分・無料)
- 京王線 『京王稲田堤』駅下車 / 小田急バス (生田営業所行) 約 12 分 / 日本女子大東門または女子大前下車
- JR 南武線 『稲田堤』駅下車 / 小田急バス (生田営業所行) 約 12 分 / 日本女子大東門または女子大前下車

「葦」今号編集時点で、スクールバスの日女祭特別ダイヤは決定していません。ご乗車になられる方は、「日本女子大学」のホームページから「交通アクセス」→「西生田キャンパス」→「バス停・時刻表」とすずんでご確認ください。(教育学科の会のホームページではありませんのでご注意ください。)

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。